

抗生物質は風邪薬ではありません

抗生物質は細菌を殺したり増殖を抑えて病気を治す薬です。細菌による肺炎や髄膜炎には素晴らしい効果を発揮しますが、安易に投与され過ぎているのが現状です。

● 抗生物質はウイルスには効かない ●

抗生物質は細菌の標的部分に結合して、細菌を殺したり増殖を抑えます。ところがウイルスには抗生物質が結合できる標的部分がないため、全く効果がありません。細菌とウイルスはどちらも感染すると発熱したりするのは一緒ですがこの2つは全く別のものです。

● 風邪はウイルスによって起こる ●

風邪はウイルスの感染によって起こることがほとんどなので細菌に効く抗生物質は効果が無く、体内でウイルスに対する免疫が出来て自然に治ります。これはすぐに熱が下がるような風邪でも、一週間高熱が続くような風邪でも一緒に抗生物質を飲めば早くに治るということはありません。自然に治る病気に対し安易に抗生物質が使われるため、“抗生物質が風邪に効いた”という誤解が生まれています。

● 抗生物質の飲み薬には限界がある ●

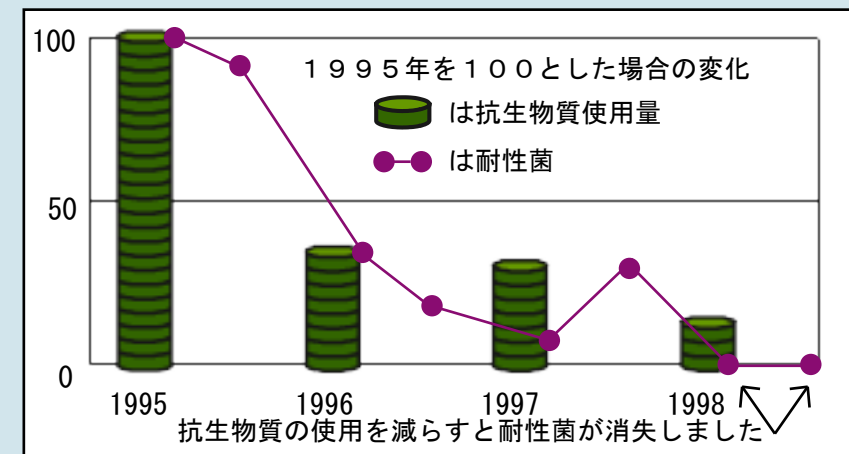
熱が下がらない・咳がきつくなって苦しう・鼻水が濁って鼻がつまる、といった時は風邪がこじれて中耳炎や気管支炎、ちくのう症を合併しているかもしれません。こうした場合途中から細菌の感染を併発した場合がほとんどで

抗生物質による治療が必要です。しかし風邪の最初から抗生物質を飲んでもこれらの合併症を予防することは出来ません。また重症の細菌感染症を飲み薬で治療することは不可能で入院してしっかり抗生物質を点滴しなくてはなりません。点滴と飲み薬では効き目が全く違うからです。

風邪がこじれたら抗生物質が必要です。しかしあらかじめ飲んでこじれることを予防はできないし、本当にこじれたら飲み薬では治療できません。

● 抗生物質の効かない耐性菌が増えている ●

風邪のたびに抗生物質を飲んでいると薬の効かない耐性菌ばかりが生き残ってしまいます。耐性菌は接触などによって子供から子供へどんどん広がってしまうため、とびひや中耳炎といった本来治りやすかった病気がとても治りにくくなってしまいました。そればかりか耐性菌による髄膜炎なら命にかかわります。抗生物質の使用量を減らして正しく服用すれば耐性菌も減ることが分かっています(図)。飲んだり飲まなかったりではなく熱が下がっても最後までしっかり飲みきる。またフロモックス・メイアクト・セフゾンといった薬は1日3回に分けて飲むことが大切で、1日2回の服用では効果が無く耐性菌を増やすだけです。注意して下さい。



日本外来小児科学会 抗生物質と耐性菌より



みずの坂こどもクリニック